

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

児童生徒、保護者、医療者、教職員が、羽曳野支援学校で出会ったすべての人や経験を通して「はびきのプライド」を持ち、児童生徒が、「強く、明るく、豊かに」毎日を過ごし、原籍校へ戻っていける学校をめざす。

- ・児童生徒一人ひとりの個性と可能性を大切に、「楽しく学び、ともに育ち、豊かに生きる」教育の実現。
- ・地域の学校や関係機関との協働推進による病気やけがの子どもたちへの支援の拡充。

### 2 中期的目標

- 1 児童生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働の学びの充実**
  - ① 児童生徒の病気やけがの状況に応じた指導内容や指導方法の工夫等を充実させるために多様な教育活動に取り組む。
  - ② 小学部・中学部段階から将来をみすえた自主性・自立性を育成するため、発達段階に応じたキャリア教育の充実をめざす。
  - ③ 確かな学力の定着と学びを深化させるため、1人1台端末を効果的に活用した様々な体験(間接的・疑似的)や、プログラミング的思考の育成、読書活動の推進、本校と各分教室間や原籍校とつなぎ、協働の学びの充実をさらに推進する。
  - ④ 本校と6つの分教室間の効率の良い教員配置を推進し、分教室間連携ではICTを活用する等発展させる。
  - ⑤ 個別の教育支援計画・個別の指導計画の充実および児童生徒の特長をのばす支援体制の確立をめざす。
- 2 支援教育力の向上**
  - ① 「主体的対話的で深い学び」をめざした授業や、自立活動を充実させ、児童生徒が自分の病気やけがに向き合い、心身の安定と自己肯定感を育成する教育力を身に付ける。
  - ② 大学、企業、地域等と連携を充実させ、教育相談や授業の充実、専門人材の活用や経験年数の少ない教職員の育成を含めた教職員の専門性の向上を図る。
  - ③ センターの機能の役割を果たすとともに病弱支援に関わる地域における支援教育の充実(特に心身症等に係る不登校支援)に努める。
- 3 安全で安心な学校生活をおくることができる学校づくり**
  - ① 児童生徒が安心して学校生活ができるよう、児童生徒の人権を尊重する学校づくり。
  - ② 学校間(羽曳野支援と原籍校)連携、医療機関(羽曳野支援と病院)連携、保護者との連携体制、強化した学校づくり。
  - ③ 多様化する家庭環境に対して、子どもたちの健やかな成長を支えるため、保護者や子どもたちが家庭教育について考えたり相談したりする学校づくり。
- 4 教職員の働き方改革**
  - ① 教職員が効率の良い働き方ができるようグループウェア等を活用した「校務運営の効率化」をめざす学校づくり。
  - ② 全校一斉定時退庁日を設定し、教職員の業務量の適切管理等をすすめる学校づくり。

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和5年 月～実施分]	学校運営協議会からの意見

### 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 児童生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 児童生徒の病気やけがの状況に応じた指導内容や指導方法の工夫等充実させるために多様な教育活動に取り組む。</li> <li>② 小学部・中学部段階から将来をみすえた自主性・自立性を育成するため、発達段階に応じたキャリア教育の充実をめざす。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業や自立活動や総合的学習の時間等を活用し、こどもが病気やけがの状況を理解しながらも、豊かな学びの充実をすすめる取り組みを本校や6分教室、訪問教育先病院の病気や怪我の特性に応じて行う。</li> <li>② ア 自立活動の時間等を利用したキャリア教育を実施する(自分を知る・他者を知る・社会を知る取り組み)。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断アンケート(児童生徒①) 学校に行くのが楽しい [R4 そう思う 59%] R5評価指標 そう思う 70%以上</li> <li>②・ア ・学校教育自己診断アンケート(児童生徒④) これからの夢や職業、進路について先生と話し合ったことがある [R4 そう思う 30%] R5評価指標 そう思う 50%以上</li> <li>・社会人から学ぶ(オンライン)講話や実体験の実施(阪南)</li> <li>・病院で働く人々からインタビュー実施(母子)</li> <li>・教員見学研修。(年2回以上) フリースクール・適応指導教室、先進的な取り組みを実施している学校等を見学し、多様な進路相談や進路実現、不登校児童生徒への指導等、支援できるようにする。 R5評価指標 教員見学研修を実施し、校内研修等で伝達する</li> </ul>	

学びと協働の学びの充実

③ 確かな学力の定着と学びを深化させるため、1人1台端末を効果的に利活用した様々な体験(間接的・疑似的)や、プログラミング的思考の育成、読書活動の推進、分教室間や原籍校とつなぎ、協働の学びの充実をさらに推進する。

④ 分教室間の効率の良い教員配置を推進し分教室間連携を強化する。

⑤ 個別の教育支援計画・個別の指導計画の充実および児童生徒の特長をのばす支援体制の確立を目指す。

・イ  
病種により、将来必要となる生活のあり方が異なるため、各部署の状況に応じたキャリア教育に関わる取り組みを行う。

③・ア  
全国ロボットプログラミング選手権(病弱教育部門)、羽曳野支援学校全校プロジェクトなど、オンラインでつないだ学校行事を実施し、多様性を認めて他者と協働する力を育成したり、自分を俯瞰的に理解する力を育成したり、ロボットプログラミングやゲームや動画等を視聴し、論理的に考えて答えを導く力を育む。

・イ  
・リモート機器を利用し、間接的・疑似的体験を実施する。  
・児童生徒と原籍校をリモートでつなぎ、復学への支援を実施する。

・ウ  
・読書活動推進委員会を中心に、よみきかせや図書紹介リーフレット作成、ブックトーク等、工夫した取り組みや蔵書のデジタルリーフ化を進める。

④・ア  
・教育課程検討委員会、ICT委員会等で、教員の保有免許を考慮し、ICT機器を利用した効率の良い授業を実施。

・イ  
・過去の児童生徒在籍数を分析し、時期により効果的な人員配置を行う。

⑤・自立活動部を中心に個別の教育支援計画・個別の指導計画の記載内容の充実を図る。

・イ  
・学校教育自己診断アンケート[教職員③]「児童生徒の発達段階に応じた進路指導(将来の夢や職業、進路、生きる力等)に努めている。  
[R4 そう思う 55%]  
評価指標 そう思う 60%

③・ア  
・自立活動や総合的学習の時間で、ICT端末を積極的に活用し、プログラミング的思考を育成する学習をする。  
プログラミング的思考の解説動画の視聴や、日常生活を題材としたプログラミング的思考の学習、カードゲームやボードゲームを活用したプログラミング的思考の気づき、ロボットを活用したプログラミング的思考の育成等を行う。  
[R4 年間回数 本校各分教室で年間6回かつ全校で年間計 50回 ]  
R5評価指標  
これらの授業実施回数  
本校及び各分教室で年間 7回以上かつ全校で年間計 60回以上実施

・イ  
・遠隔操作を行い、分教室間でポッチャ交流等の間接的・疑似的体験回数  
[R4 年間3回]  
R5評価指標 年間3回以上  
・他分教室との自立活動交流  
[R4 年6回]  
R5評価指標 年6回  
・原籍校とのリモート回数  
[R4 年1回]  
R5評価指標 年間1回以上

・ウ  
・校内教員アンケート[読書を活性化させることができたか]  
[R4 肯定率 79%]  
R5評価指標 肯定率 85%  
・図書貸出率(図書貸出数/延べ在籍数)  
R5評価指標 100%

④・ア  
・本校と6分教室、訪問教育部で、ICT機器を利用した効率の良い授業の実施率を数値化する。[新規]  
R5評価指標 全教科 ICT 機器利用授業実施率 90%

・イ  
・過去の児童生徒入級状況のデータベースを作成する。[新規]  
R5評価指標 データベース作成

・個別の支援計画の全データ化  
・個別の指導計画のデータ化検討  
R5評価指標 支援計画のデータ化実施

2・支援教育力の向上

① 「主体的対話的で深い学び」を旨とした授業や、自立活動を充実させ、児童生徒が自分の病気やけがに向き合い、心身の安定と自己肯定感を育成する教育力を身に付ける。

② 大学、企業、地域等と連携を充実させ、教育相談や授業の充実、専門人材の活用や経験の少ない教職員の育成を含めた教職員の専門性の向上を図る。

①・ア  
・ICT教育推進のための設備をさらに充実させ、自己理解や自己肯定感を高める学びへつなげる授業を行い、「自分を肯定し、主体的に学ぶ力」や、「社会とつながる自分を考える力」を育む。

②・ア  
・全国・近畿・大阪の病弱教育研究会に参加するとともに、実践発表を通して情報共有・情報交換を行い、教員の専門性の向上を図る。

・イ  
・病弱教育における教科指導力の向上について、教員が互いに学びあう機会を設ける。教科書改訂に伴う必要書籍および研究書籍を確保し、研究をすすめる。

・ウ  
・病弱支援学校で学ぶ児童生徒の病気やけが等を理解した指導ができるよう教職員の研修を行う。

・エ  
・大学や企業等と連携し、ICT教育を推進するための取り組みを行う。

①・ア  
・授業で利用した教材等、学習支援クラウドサービス等に蓄積し、児童生徒が振り返りやすくしたり、限定公開の動画等により、校内で実践事例を公開し、関係教員がいつでも見学できる仕組みを構築する。  
・児童生徒の状況に応じて双方向のオンライン授業をしたり、スライドを用いた発表を全校で実施する。  
・学校教育自己診断アンケート(児童生徒②)授業は分かりやすい  
[R4 そう思う 63%]  
R5評価指標 そう思う 70%以上  
・各教科で授業見学会を実施し、授業改善を図る。研究誌はびきのに掲載できるようにする。  
R5評価指標 授業見学会年3回実施  
中学部 国・数・社・理・英・実技4科  
小学部 全科  
・学校教育自己診断アンケート(教員)④「学校は、児童生徒がタブレット端末を効果的に活用できるようにしている」  
[R4 そう思う 47%]  
R5評価指標 そう思う 60%以上  
・デジタル教材活用PTを立ち上げる。[新規]  
・ICT教育を推進するために、分教室の通信環境整備や訪問教育時の通信環境改善に必要な機器等、必要な備品・消耗品を整備し、活用する。  
R5評価指標 デジタル教材活用授業教員(40%以上)

②・ア  
・R5大阪病弱教育研究会幹事校として 府内病弱支援教育力向上に寄与する。  
R5評価指標 幹事校実績

・イ  
・全校研修(新転任者研修及び希望者研修)を実施するとともに、業務上必要な基礎力アップをはかる。  
研修研究に必要な書籍やアプリ等を選定し充実させる。  
[R4 年3回]  
R5評価指標 年間3回以上

・ウ  
・病院やリーディングスタッフを中心に校内支援を実施し、専門性を高める研修を行う。  
R5評価指標 年間 6回以上

・エ  
・慶應大学と連携し、PDF版教科用図書の活用を推進する。  
・企業等と連携し、テレプレゼンスロボット等を活用した取り組みや食育についての取り組みを行う。  
R5評価指標 実績評価

	<p>③ センターの機能の役割を果たすとともに病弱支援に関わる地域における支援教育の充実(特に心身症等に係る不登校支援)に努める。</p>	<p>③ 保護者、医師、原籍校、福祉との連携のもと、児童生徒の状態に合わせて、ケース会議を行い、スムーズな復学をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ア</li> <li>・保護者と児童生徒が共に過ごせる機会を設けるとともに、保護者と共に交流が図れるよう内容を検討し実施する。</li> <li>・イ</li> <li>・他病院で治療を受けている児童生徒の教育を受ける権利を保障するため、訪問教育についての理解促進を図る。</li> <li>・ウ</li> <li>・ICT 教育のさらなる推進や、病弱支援教育における課題を発信するため、地域向けにセミナーを実施する。</li> </ul>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ア</li> <li>・学校自己診断アンケート(保護者⑫)PTA 行事は参加しやすいよう工夫されている。 [R4 44%] R5評価指標 50%。</li> <li>・イ</li> <li>・大阪府看護師協会、市町村教育委員会と連携し小中学校養護教諭・市町村立学校教頭会など連携し訪問教育について説明する機会を増やす。 [R4年6回] R5評価指標 年8回</li> <li>・ウ</li> <li>・ICT 教育を推進するための教員力向上研修を行う。 [R4年3回] R5評価指標 年3回以上</li> <li>・デジタル教材を積極的に活用し、市町村院内学級の支援力向上のため大阪病弱教育研究会等で発信する。</li> <li>・地域向けセミナーや研究会への発信。 [R4実施回数 年6回] R5評価指標 年6回以上</li> <li>・学校 HP 等で、地域支援に関する情報を積極的に情報提供する。</li> </ul>	
<p>3 ・安全で安心な学校生活をおくることのできる学校づくり</p>	<p>① 児童生徒が安心して学校生活ができるよう、児童生徒の人権を尊重する学校づくり。</p> <p>② 学校間(羽曳野支援と原籍校)連携、医療機関(羽曳野支援と病院)連携、保護者との連携体制、を強化した学校づくり。</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの早期発見に向け、病棟と連携して、日々の連絡の中で、気になる状況があれば共有し確認する。いじめが明らかになった時にはいじめ対策委員会で迅速に連携対応する</li> <li>・入院する子どもの人権について、研修を行う。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院と学校との連携の強化</li> <li>・保護者、児童生徒との教育相談の徹底</li> <li>・原籍校との連絡体制の強化</li> </ul>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ見逃しゼロをめざす</li> <li>・学校教育自己診断アンケート児童生徒⑪「先生は羽曳野支援学校で起こったいじめについてあなたが困ったら真剣に対応してくれると思う」 [R4 そう思う 67%] R5評価指標 そう思う 75%以上</li> <li>・学校教育自己診断アンケート児童生徒⑩「あなたの体や心の状態について先生に話をしやすいと思う」 [R4 そう思う 62%] R5評価指標 そう思う 75%以上</li> <li>・学校教育自己診断アンケート保護者⑥「学校は子どもの人権やプライバシーに配慮した指導を行っている」 [R4 そう思う 71%] R5評価指標 そう思う 80%以上</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断アンケート医療関係者④「学校は地域校との連絡会等で、医療関係者と原籍校をつなぐ役割を果たしている」 [R4 そう思う 29%] R5評価指標 そう思う 40%以上</li> <li>・学校教育自己診断アンケート医療関係者⑤「学校は医療関係者との連絡や情報提供を行っている」 [R4肯定回答率 30%] R5評価指標 そう思う 40%以上</li> <li>・学校教育自己診断アンケート保護者⑧「学校は原籍校と連絡や転校時の引継ぎを行っている」 [R4 そう思う 91%] R5評価指標 そう思う 91%</li> </ul>	

	<p>③ 多様化する家庭環境に対して、子どもたちの健やかな成長を支えるため、保護者や子どもたちが家庭教育について考えたり相談したりする学校づくり。</p>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との教育相談支援を充実させ、退院後の過ごし方等、家庭教育について考えたり相談したりする取り組みを行う。</li> <li>・万一の災害時対応について、教育相談時と入級時に保護者と子どもと確認を徹底する。</li> </ul>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断アンケート保護者⑨「学校は保護者と連絡や情報提供を行っている」 [R4 そう思う 79%] R5 評価指標 そう思う 85%以上</li> <li>・学校教育自己診断アンケート保護者⑩「学校は子どもの病気や心身の状態についてよく理解している」 [R4 そう思う 78%] R5 評価指標 そう思う 85%以上</li> <li>・学校教育自己診断アンケート保護者⑪「教員は個別の教育計画を本人・保護者のニーズを踏まえて作成している」 [R4 そう思う 82%] R5 評価指標 そう思う 85%以上</li> <li>・学校教育自己診断アンケート保護者⑦「学校から地震や火災など防災教育や安全教育を受け、入級時に災害時における学校の対応について説明を受けた」 [R4 そう思う 74%] R5 評価指標 そう思う 85%以上</li> <li>・学校教育自己診断アンケート児童生徒⑧「地震や火災の時の避難方法や危険から身を守る方法について勉強したことがある」 [R4 そう思う 45%] R5 評価指標 そう思う 55%以上</li> </ul>	
<p>4 教 職 員 の 働 き 方 改 革</p>	<p>① 教職員が効率の良い働き方ができるようグループウェア等を活用した「校務運営の効率化」を旨とする学校づくり。</p> <p>② 全校一斉定時退庁日を設定し教職員の業務量の適切管理等をすすめる学校づくり。</p>	<p>①・ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校・各分教室の情報共有についてリアルタイムで共有する取り組み</li> </ul> <p>・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校・全分教室や、分掌、全委員会が効率の良い情報共有を行い、教材の共有や教材研究の時間確保ができるようにする。</li> </ul> <p>② 全校一斉定時退庁日を設定や校務運営の効率化を実施する。</p>	<p>①・ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の教員朝礼を、Web 会議システムを利用し、本校と6つの分教室をつなぐ。 [R4 3学期週1回実施] R5 評価指標 毎日実施できたか</li> <li>・教員の日々の急な勤務変更など、フォーム作成ツールで共有し、授業の少ない分教室から、授業の多い分教室への派遣を効率よく行う。 R5 評価指標 年間派遣回数 10 回以上</li> </ul> <p>・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問教育部と訪問教育に関わる教員の情報等学習支援クラウドサービスを活用した情報共有を行う。勤務公署の離れた教員との会議について Web 会議システムを利用した会議を行う。 [R4 年度 30 回] R5 評価指標 Web 会議システムを活用したオンライン会議数 40 回以上</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則水曜日を定時退庁日と設定し、水曜日に定時退庁できない場合は他の曜日を定時退庁することを周知徹底し、週一回以上実施する。 R5 評価指標 実績評価とする</li> <li>・グループウェア等を活用した校務運営の効率化を実施する。 R5 評価指標 実績評価とする</li> </ul>	